

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月24日現在

機関番号：23102

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：H21年度～H24年度

課題番号：21243010

研究課題名（和文） アジアの普通の人々の日常生活に関する大量データの理論的実証的研究

研究課題名（英文） A Theoretical and Empirical Study of Daily Life of Ordinary People in Asia

研究代表者

猪口 孝 (INOUCHI TAKASHI)

新潟県立大学・その他・学長

研究者番号：30053698

研究成果の概要（和文）：アジア・バロメーターは膨大な生活の質を中軸としたデータをアジア三十一カ国の世論調査を基にしたものであるが、成果はさまざまな視点から面接して得られた反応を分析と総合がその仕事の大部を占める。すでに2005年以降から分析・総合を進めてきたが、作業が膨大になり、2012年まで優にかかった。生活の質については、*The Quality of Life in Asia* (Springer, 2012)をはじめ、主として数多くの雑誌論文を英文で刊行してきた。2013年には『アジアの心を写す鏡—アジア・バロメーターの知見』（西村書店、印刷ページが600～700となる予定、2013年7月刊行予定）が完成される。その他にも主として英文で学術書を2013年、2014年、2015年に予定している。

研究成果の概要（英文）：The AsiaBarometer has generated massive data on quality of life in Asia. It covers 31 societies and in terms of subjects, quality of life, health, social capital, social and political institutions, global life. We published a dozen books and numerous journal articles. In English *The Quality of Life in Asia*, Dordrecht, Springer 2012 is a most comprehensive publication in English whereas in Japanese *Asia no kokoro o utsusu kagami: The AsiaBarometer's Findings* is a most comprehensive work in Japanese. More books and numerous journal articles will be published in 2013-2015.

交付決定額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|------|------------|-----------|------------|
| 21年度 | 6,000,000 | 1,800,000 | 7,800,000 |
| 22年度 | 6,000,000 | 1,800,000 | 7,800,000 |
| 23年度 | 6,000,000 | 1,800,000 | 7,800,000 |
| 24年度 | 6,000,000 | 1,800,000 | 7,800,000 |
| 年度 | | | |
| 総計 | 24,000,000 | 7,200,000 | 31,200,000 |

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学

キーワード：政治理論、世論調査

1. 研究開始当初の背景

このプロジェクトのリーダーである猪口孝は、1970年代初め頃に出発したユーロ・バロメーターの元祖、ジャック・ルネ・ラビエ博士（フランス世論調査研究所所長）に1978年にパリで会見を求めた。猪口は以前からユ

ーロ・バロメーターのアジア版（アジア・バロメーター）とでもいうものをやりたいと考えていた。ラビエ博士にその構想について相談し、注意すべきことをアドバイスしてもらった。2005年、文部科学省の科学研究費助成事業にアジア・バロメーター世論調査の実

施を企画応募し、2005年－2009年事業で採択された。

2. 研究の目的

アジア人は何を考えているかわかりにくいとよく言われる。その一つの理由は世論調査データが乏しいことである。アジア・バロメーターは世界でも唯一無比の全アジアをカバーする大規模調査であり、そのアジアで人はどのような生活を送っているか、生活の質をさまざまな角度から実証データをつくり、それを基に生活の質、健康、社会資本、社会制度、政策イシューズなどを分析している。オープン・アクセス方式なので世界中の学者に広く使われている。

3. 研究の方法

アジアの31の社会で各社会でほぼ1000のサンプル・サイズで面接方式で世論調査を実施した。人口サイズの大きな社会では一回に限らず、3－4回世論調査を2005－2009年の間で実施した。生活の質、健康、社会資本、価値観、社会制度、政治問題、国際関係などについて、質問を行い、世界でも唯一無比の広範な主題についてアジア人の反応を得ている。これらの膨大なデータを学術的に分析している。研究方法は正統的な社会科学世論調査分析を使っている。刊行は主として英文で行い、全世界に発信されるだけでなく、受信されていることがグーグルなどの論文の被引用件数で知ることができる。

4. 研究成果

(1) 方法論的な成功は権威主義的な政治体制の多いアジアで2つ(朝鮮民主主義人民共和国とティモール・レステ)を除いてすべての国家(と台湾と香港)29とアジアの隣接国米国、ロシア、そしてオーストラリアを加えて32の国家(と地域)で「生活の質」に焦点を当てた全国無作為(ないしそれに匹敵する)世論調査を実施できた。世界でも唯一無比の成果である。当局の許可をとることが権威主義国のほとんどで不可欠であるが、実施されたくない質問を特定してもらい、その他の質問は温存することを確認する戦略は大成功であった。

(2) 理論的にみると、近代化、グローバル化、文明の衝突、アジア的価値などの仮説を検証できた。その中でも個人の生活の諸側面についての満足度の各国ごと因子分析を使って市民社会の類型を(a)物質主義、(b)脱物質主義、(c)強靱な公的部門の次元の内二つを組み合わせることによって、市民社会からみた国の類型をつくることに成功した。各国について1回から4回まで世論調査

を実施しているが、各国ごとに反応者をプールすることによって、因子分析結果がローバストにすることに成功している。(a)と(b)、

(a)と(c)、(b)と(a)、(b)と(c)、(c)と(a)の類型である。これを民主主義－権威主義尺度からみたレジームの類型と組み合わせた政治体制論を提出できた。政治体制論は国家レベルでの比較政治にアリストテレスからロバート・ダール、そしてマルクス主義的著者にいたるまで、市民社会なしの類型論が圧倒的である時に、本研究は証拠を基礎にした国家論と市民社会論に一石を投ずるものとなっている。

(3) 主題内容に目を転ずると、生活の質の認識は高経済成長の達成者で、高度に民主主義的の市民である日本、韓国、台湾がアジアで最も不幸である。一人当たりの所得からみて最低の南アジアの国がアジアで最も幸福である。宗教と(村落などの)共同体の果たす役割が大きいとみられる。平均してみると、東アジア、中央アジア、東南アジア、南アジアの順に不幸である。

(4) 物質主義は生き残り、脱物質主義は社会関係、強靱な公的部門は強い国家を意味するものであるが、これらの次元から市民社会類型論を構築できることを証明している。市民の一人一人の日常生活での満足度のパターンから析出した市民社会類型論であり、社会人類学者、社会学者、地理学者などが提出してきた社会類型論とおおむね整合するものでもある。

(5) 対人信頼や制度信頼からみると、アジアの社会は歴史的に形成され、累積された政治文化のパターンによっておおむね説明できる。(a)人間性についての儒教やヒンズー教などにみられる信念、つまり性善説や性悪説、(b)英国植民地主義下で培養された個人主義的功利主義、(c)共産主義下で生まれた社会システムに対する服従・同調という3次元である。

(6)「高齢者による平和」というマイケル・ハースの仮説、軍事予算と年金予算の優先順位からみると、多くの社会で高齢化とともに、平和志向がよくなっていることが検証された。しかし、これは市民社会のレベルの話で、上部の政治レベルのモデル化は各国ごとに複雑なモデルが構築されなければならない。

(7) 政府許可証の付与に纏わる市民の行動選択はアルバート・ハーシュマンの仮説、パフォーマンスの悪化している組織・社会での個人の対応、つまり脱出、抗議、忠誠の三個の分布は日本、中国、インド、米国、豪州、ロ

シアでどのようなパターンを示すかを政治文化の通説を実証する形で検証できた。

(8) 成果発表の形態については、世界で有数の一流学術雑誌に論文を刊行することを機軸にしてきたことも、世界で有数の学術出版社から学術書を刊行できたことも、成功の大きな理由である。グーグル・スカラのスコアが1990年代から2000年代、そして2010年代へと代表者分が年々増加していることもその成功を証明する大きな証拠である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計13件)

- ① Takashi Inoguchi, Introduction to the Special Issue: Soft Power of Civil Society in International Relations, Japanese Journal of Political Science, 査読有、Vol.13, pt.4, 2013, 473-476, <http://dx.doi.org/10.1017/S1468109912000229>
- ② Takashi Inoguchi, Asia Barometer's Achievements, Underutilized Areas of the Survey, American Political Science Association, 査読有、Vol.10, no.3, 2012, 2, 13-15
- ③ Takashi Inoguchi, Pacific Region, The Oxford Companion to Comparative Politics, 査読有、2012, 1, 2012, 195-199
- ④ Takashi Inoguchi and Baogang He, Preface: Responses to the Special Issue, 'Ideas of Asian Regionalism, Japanese Journal of Political Science, Japanese Journal of Political Science, 査読有、Vol.13, pt.1, 2012, 131
- ⑤ Takashi Inoguchi, 2012, an Era of Uncertainty, OpenDemocracy, 査読有、2011
- ⑥ 猪口孝、国際比較政治研究と計量政治学、シリーズ<行動計量の科学>1 行動計量学への招待、査読有、2011、134-144
- ⑦ Takashi Inoguchi, Japanese Ideas of Asian Regionalism, Japanese Journal of Political Science, 査読有、Vol.12, pt.2, 2011, 233-249
- ⑧ Takashi Inoguchi and Baogang He, Introduction to Ideas of Asian Regionalism, Japanese Journal of Political Science, Vol.12, pt.2, 2011, 165-177
- ⑨ Takashi Inoguchi, Political Science in Japan: Looking Back and Forward, Japanese Journal of Political Science, 査読有、Vol.11, pt.3, 2010, 291-305
- ⑩ Takashi Inoguchi, Introduction to

Special Issue: Japan as Studied in Japan's Neighbors and Japan Itself, Japanese Journal of Political Science, 査読有、Vol.11, pt.3, 2010, 271-273

⑪ G. John Ikenberry and Takashi Inoguchi eds., Introduction to Special Issue: A Post-American East Asia? Networks of Currency and Alliance in Changing Regional Context, International Relations of the Asia-Pacific, 査読有、Vol.10, no.3, 2010, 383-388

⑫ Takashi Inoguchi, World Order Debates in the Twentieth Century: Through the Eyes of the Two-level Game and the Second Image, The Chinese Journal of International Politics, 査読有、Vol.3, no.1, 2010, 1-34

⑬ Takashi Inoguchi, Demographic Change and Asian Dynamics: Social and Political Implications, Asian Economic Policy Review, 査読有、Vol.4, no.1, 2009, 142-157

[学会発表] (計5件)

- ① 猪口孝、アジア・バロメーターの成果、調査結果が十分利用されていない分野、そして将来の展望、日本行動計量学会、2012.9.13
- ② Takashi Inoguchi, Multi-Country Surveys as a Policy Instrument in the New Globalized World of 21st Century: Reflections on 10 years of AsiaBarometer, World Association for Public Opinion Research, 2012.6.5, Hong Kong University
- ③ 猪口孝、G8-失楽園、国際政治学会2010.10.30、札幌コンベンションセンター
- ④ 猪口孝、グローバリゼーション下の地域統合、日本政治学会、2010.10.10、中京大学
- ⑤ 猪口孝、Trust, Satisfaction and Support towards Environmental Challenges in East Asia: Evidence from the AsiaBarometer, 同志社大学東アジア総合研究センター、2010.3.20、同志社大学

[図書] (計16件)

- ① 中村雅治、イーヴ・シュメイユ、上智大学出版、「欧亜比較政治文化論」、『EUと東アジアの地域共同体—理論・歴史・展望』2013, 404 (355-370)
- ② Takashi Inoguchi and Seiji Fujii, Springer, The Quality of Life in Asia: A Comparison of The Quality of Life in Asia, 2012, 247
- ③ 猪口孝、ミネルヴァ書房、実証政治学構築への道、2011、257
- ④ Takashi Inoguchi and Purnendra Jain eds., Palgrave Macmillan, Japanese Politics Today: From Karaoke to Kabuki Democracy, 2011, 222

- ⑤ Takashi Inoguchi, G. John Ikenberry and Yoichiro Sato eds., Palgrave Macmillan, The US-Japan Security Alliance, 2011, 314
- ⑥ 猪口孝、ドーチュル・シン共編著、東洋書林、東アジアのクオリティ・オブ・ライフ、2011、409
- ⑦ 猪口孝編著、滋学社、アジア・バロメーター：東アジアと東南アジアの価値観—アジア世論調査（2006/2007）の分析と資料、2011、342
- ⑧ 猪口孝、ジャン・ブロンデル共著、東京大学出版会、現代市民の国家観、2010、219
- ⑨ 猪口孝、西村書店、日本政治の謎：徳川モデルを捨てきれない日本人、2010、193
- ⑩ Takashi Inoguchi and Doh Chull Shin, Springer, The Quality of Life in Confucian Asia: From Physical Welfare to Subjective Well-being, 2010, 254
- ⑪ Yersu Kim and Inwon Choue eds., Kyung Hee University, “Global Governance in the Post-Cold War Era,” Transformative Challenges, 2010, 181-190
- ⑫ 郭定平主編、上海人民出版社、日本文化変容与民主発展：経験与反思『文化と民主』2010、166-180
- ⑬ Kay Lowson eds., Praeger Pub, “Fledgling Two-Party Democracy in Japan: No Strong Partisans and a Fragmented State Bureaucracy,” Political Parties and Democracy: Post-Soviet and Asian Political Parties, 2010, 173-189, 261-263
- ⑭ Satoru Mikami, Yon-wah Chu and Siu-lun Wong eds., Routledge, “Diagnosing the Micro Foundation of Democracy in Asia: Evidence from the AsiaBarometer Survey 2003-2008,” East Asia’s New Democracies, 2010, 246-292
- ⑮ Satoru Mikami and Takashi Inoguchi, Routledge, East Asia’s Democracies: Deepening, Reversal, Non-liberal Alternatives (Politics in Asia), 2010, 328
- ⑯ Takashi Inoguchi and Seiji Fujii, Springer, The Quality of Life in Confucian Asia: From Physical Welfare to Subjective Well-Being (Social Indicators Research Series), 2009, 187-232

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

○取得状況（計0件）

〔その他〕

ホームページ等

AsiaBarometer

<https://asiabarometer.org/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

猪口 孝 (Inoguchi Takashi)
新潟県立大学・学長
研究者番号：30053698

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

園田 茂人 (Sonoda Shigeto)
東京大学・大学院情報学環・教授
研究者番号：10206683

藤井 誠二 (Fujii Seiji)
新潟県立大学・国際地域学部・講師
研究者番号：60509214

真鍋 一史 (Manabe Kazufumi)
青山学院大学・総合文化政策学部・教授
研究者番号：90098385

田中 明彦 (Tanaka Akihiko)
独立行政法人 国際協力機構 理事長
研究者番号：30163497

玄 大松 (Hyun Daesong)
東京大学・東洋文化研究所・准教授
研究者番号：70431830

三上 了 (Mikami Satoru)
JICA 研究所・研究員
研究者番号：10386708